

素敵な出会いと体験に感謝

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
車両部(ドライバー) 深川 ひさみ

「佐賀で海苔師さんの映画撮影があるよ…」と噂を聞いて1ヶ月後です。まさか、この映画に関われることになるとは夢にも思わなかった。

まずは、ロケ地となる徳田邸の掃除から始まり、荷下ろし作業と着実に映画作りが進んでいくが私の好奇心は「そんな細部まで!」「凄い!」と興奮で心が揺さぶられていた。そんな中、俳優の伊原剛志さんが佐賀に到着したと伝わり、私の興奮もMAXに達していた!最初は、伊原さんに会えるという浮ついた気持ちがありましたが、ドライバースタッフとして現場に向かった初日にその気持ちが一瞬で吹き飛んだことを思い出した。



「段取り〜!」あちらこちらから聞こえる業界用語、聞き慣れない言葉が飛び交う現場では、撮影クルーの無駄のない連携プレーと地元海苔師さんの手際の良い作業が続いた。戸ヶ里漁港から船に乗り込み、有明海に向かう伊原さんや撮影クルーが支援する会のみんなに向かって「行ってきまーす」と大きな声を張り上げ出港して行った。エンターテイメント＝キラキラした世界とはまるで違う裏側を目の当たりにして、私もドライバーで参加している以上は、迷惑をかけられないと下見に行って、道に迷わないように真面目にお手伝いをさせていただきました。(笑)

撮影最終日、海苔小屋に響く伊原さんのピアノの音、モニター画面に映る伊原さんを皆んなで見ながら涙で鼻を吸る音を堪えたあの時間は一生忘れる事はない貴重な体験でした。待ちに待った公開日から暫く経ってやっと映画館に足を運ぶことができ、私の体験は号泣で幕を閉じました。

こんなに素晴らしい作品に関われたこと、笑いの絶えない楽しい場所で温かく迎え入れて下さった支援する会の方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難う御座いました。「ら・かんぱねら」最高〜!

エキストラ出演は俳優になった気持ちに

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

炊き出し班 福田 京子

私の映画「ら・かんぱねら」との出会いは、エキストラ募集に応募して、大勢の中から選ばれた事から始まりました。どんな雰囲気であってるか興味があり、初めて撮影現場を見学しました。そして二日後には、佐賀市の浪漫座でのピアノ発表会のシーンにエキストラ出演しました。

この日の朝、現場に着いた瞬間に原島助監督から「あなたは、この男性と夫婦として歩いてください。気持ちは待たせてゴメンネ・・・といった感じでやって下さい」と指示がありました。私は、動揺しながらも演技をするの」は俳優になった気持ちでした。

ピーンと張り詰めた撮影現場の空間の中、何度もテストを繰り返しエキストラと俳優それにスタッフが一つになって進められ、撮影が終わった時はとても感動しました。そして、どっと疲れがでました。改めて俳優さんや製作スタッフの皆さんの体力、気力は凄いものと思いました。

私はその後、必然と炊き出し班のスタッフになりました。皆さんが俳優や製作スタッフの体調を考えた献立や旬の食材も地産地消にこだわり作り上げたものでした。食で皆さんが笑顔になり一致団結した素晴らしい映画が出来たと確信しています。

私は、支援する会の一員になれたこと「一期一会」に感謝致します。



私のおはぎがスクリーンに登場

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
スタッフルームチーム 納富 直美

まさか、私が作った「おはぎ」がスクリーンに登場するとは思わなかった。振り返ると、支援する会のスタッフルームに通い始めて間もなくのことです。監督から有明海の撮影シーンに使うから粒あんの「おはぎ」を作ってほしいと依頼がありました。こしあんはよく作っていますが、粒あんは苦手なので作った事はありませんでした。それは、小豆の選別や煮る時間さえ分からない手探り状態でした。そこで近所のお店でアンパンやまんじゅうを買って色々食べて食感を確かめては、何度か試作してみました。

私は、以前から腰痛持ちで長時間の作業は大変でした。それでも頑張って作りました。アドバイザーで故内田俊彦さんから「おはぎは、今年も美味しい海苔が採れますようにとゲン担ぎのため作り、海苔作業が始まる時に食べるんだよ」と伺い、合わせて映画の撮影が無事に終わりますようにとの祈りを込めて作りました。

伊原剛志さんを交えての試食会の直前の事でした。伊原さんは、甘いものが苦手との情報が入り焦りました。砂糖と塩の加減をどうしようか、頭を抱えてしまいました。試食会は、心臓がはちきれんばかりに緊張し不安を感じてた時「美味しい」と伊原さんが笑顔で褒めてくれて、全身の力が抜けてしまいました。



依頼からロケ本番までの1ヶ月ほどは小豆との格闘の毎日が続きました。こんなに粒あんに悩まされるとは思いませんでしたが、美味しそうに食べていただけて嬉しかったです。

最後に娘が上京する前に、一緒に活動できたことも良い思い出になりました。皆さんに感謝いたします。

酒会から支援が始まった

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

商工部会

池田 茂

私、江北町で塩ラーメン屋須彌亭(しゅみてい)を営む池田と申します。私と映画「ら・かんぱねら」を支援する会との出逢いは、佐賀市旧古賀銀行跡(浪漫座)で開催された日本酒の会でした。そこで、監督やプロデューサーと一緒に壇上で挨拶されたのが、商工会青年部でお世話になった事務局の川原常宏さんでした。

懐かしさを覚え、その日は、プロデューサーの川口浩史さんと川原さんのお二人に、二次会迄お付き合いいただきました。その場には、酒会の主催者の女将とJAさがホールディングスの金原壽秀会長も同席され、楽しい時間を過ごすと共に、支援する会への熱心な勧誘を戴き協力していく事に致しました。

その後は、寄附や映画上映への理解など、支援する会の皆さまのご指導を仰ぎながら活動させていただきました。店にポスター等貼っていますと、いろんなお客様から「私も、協力しようよ!」「〇〇さん知ってますよ」「佐賀の映画よね?」「もう少しPRした方が、よかよ」等と励ましの声を掛けて戴く事が多く、支援する会の活動が多岐に渡り浸透しているのが実感できる日々でした。

映画に携わると云う非日常的で貴重な体験をさせて貰って、私にとっても大切な時間となりました。

この映画に関わりが出来たことに対して、皆様に感謝申し上げ、これからも大事にして行きたいと思います。映画「ら・かんぱねら」を支援する会の皆様の発展の一助と成れば幸いです。 啓白



不知火同窓会の一員として

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 鶴丸 征枝

夢を叶えた海苔師さんが同級生であることを知りました。不知火同窓会の川崎賢朗会長から「やれる範囲で良いから、支援する会の活動をして、みんなで試写会をみましょう」という言葉に背中を押されました。

指令はまず、映画で使用するスタインウェイピアノを探せ、でした。私は、それなりの人脈を駆使し、色々と駆け回り盛り上がりました。指令のもとに私の活動を報告します。①支援金集め、映画の宣伝等。②食事づくりのお手伝い。その内容は、カットした野菜や肉をフードコーディネーターの方の指示に従って美味しそうに仕上げていく。出来上がった時、笑顔の花が咲きました。③ロケの見学。役者の皆さんの「佐賀弁上手かあ〜」「綺麗かあ〜」などと思いました。

その他、ピアノ発表会や調律のシーンは、駆け回って探したこと等を思い出しては親しみと懐かしさがこみ上げてきました。また、ピアノの演奏シーンでは、張り詰めた空気の中、何故か私自身も緊張していました。今の気持ちは、素晴らしい映画が完成し、たくさんの人に観ていただいて感動を共有したい気持ちで一杯です。

何より支援する会の皆様方の熱意に頭が下がります。そこには、いつも笑顔があります。不知火同窓会事務局の鐘ヶ江留美子さんのご尽力はもとより、目配り、気配り、心配りは素晴らしいといつも思います。私に声をかけて頂きありがとうございました。「諦めなければ夢は叶う」この言葉を大切に、前に進んでいけたらと思います。



本番のカチンコで緊張が増し

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 百島 美代子

友人から映画キャストのオーディションと支援する会のお手伝いのお誘いがあり、皆さんとの出会いが始まりました。

最初はエキストラとして出演が決まり前日の夜、製作スタッフから「翌朝は5時30分過ぎに現地集合できますか」と電話連絡が来ました。また「衣装は自前で準備してください」とのことで少し興奮気味になり、夜中まで服を選びました。いよいよ撮影当日、現場は朝早かったのですが約50人のスタッフが準備されていて、映画製作の大変さを感じつつ、ドキドキしながら監督からの指示に少しでも近づけるよう演技する事に必死でした。そして、いざ本番のカチンコの音で緊張は増し、あっという間にワンシーンを撮り終えました。



次のシーンは南果歩さんの近くでの撮影でした。果歩さんは、自分の演技もさる事ながらエキストラを含めたシーンに「こうした方がいいんじゃない」と細かな演技指導する事もありました。映像では、さりげなく演技されているように見えても、よりリアルな役柄になるよう考えながら演じられた南果歩さんの女優魂を感じるひとときでした。

また、この映画の主演となった徳永義昭さんのピアノへの人方ならぬ努力と奥様の支え、その上、有明海の海苔師の現状や家族愛が描かれ感慨深い映画となっていました。

私はエキストラに加え夕飯の炊き出しや事務所のお手伝いをさせていただきましたが、今回の撮影現場を体験して思ったことは、支援する会や製作スタッフの素晴らしいチームワークで出来上がった映画に少しでもお手伝いできたことは、私の思い出に残る日々でした。本当に有意義な毎日でした。



ドライバーとして映画づくりを体験

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
車両部(ドライバー) 中野 利勝

映画には、スタッフドライバーとして撮影隊に参加することができ、大変良い経験をさせて頂いた事に感謝しています。

ドライバーとして、安全運転を徹底し時間に遅れたらいけないという責任感を感じながらの楽しい日々でした。撮影現場を見学させて頂いて、ワンシーンを撮影するのにも、大変な作業の中で繰り返され「OK」サインがでるまでのドラマが、そこにはある事を知りました。

普段、ドラマとか映画とか何も考えないで見ていた事が少し恥ずかしい気になりました。例えば、ワンシーンの撮影でも、その現場には沢山のスタッフが取り囲み真剣に取り組んでいる光景は、私のハートに焼き付いています。



当たり前的事だと思いますが、この素晴らしい作品は、夜の撮影、朝の撮影に関わらず時間との戦いの中でしか出来上がらない事を痛感しました。そして、俳優さんが熱のこもった演技を披露し、それをカメラ、照明、録音などの人たちが一体となって収録するこのチームワークから素晴らしい作品が生まれるものだとして初めて知り、合わせて体験させて頂きました。今は何気なくドラマを見ている家族に「なんも考えんで見よーろ！回りには沢山のスタッフさんが囲んで撮影しよんさーよ！大変かとよ！」と言ってしまう、今日この頃です。

今後願う事は、この作品を1人でも多くの人に見て頂き、そして永遠に生き続ける作品となって欲しい、そうなる事を固く信じています。

本当に楽しい日々と体験をありがとうございました。



文ちゃんも人間です。爆睡もします。

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
車両部長兼ドライバー 吉田 信

映画「ら・かんぱねら」にエキストラや車両部などで関わり幸せな1ヶ月でした。佐賀スタッフ&東京スタッフ&スーパースター俳優軍団の皆さん、全ての人に言えるのは、悪い人が1人も居ない軍団でした。だから、ロケ期間中は、愉快で楽しい事ばかりで最高の気分を味わいました。

私は、愛称で「文太」と呼ばれています。映画トラック野郎の主役の菅原文太さんが大好きで自称「トラック野郎」を名乗り直接会いに行った事もあるから、スタッフの皆さんから「文太」と呼ばれるようになったのです。

食事の場所でも、ロケ地でも少しの休み時間があると気軽に声を掛けられて嬉しかったです。そのお陰で、他の人よりも多くの記念写真を撮っていただきました。有難かったです。

たまには、トラックの運転席で「爆睡」することもありました。でも、この日は早朝4時からのロケが始まるため、早起きして撮影機材を運ぶボランティアだったので、気は引き締めていたのですが昼食の後、ポカポカ陽気に誘われて、つい寝てしまったこともありました。そこはご愛嬌でお願いします。

映画が完成し、試写会が行われました。会場は泣いて笑って最後はお客様が立ち上がり拍手喝采でした。この映画に関わった事は誇りに思います。ありがとうございます。

追伸 内田先輩、原ちゃんご苦労さまでした。



必死に練習する姿に感激

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 大久保 新

映画館で映画を観たのは何か月ぶりだろう。最近は何年に1回観ているのだろうか？

私の映画館デビューは、中学生の頃だったと思う。同級生4人で観た東映の任侠映画と記憶している。高倉健さんが主演で、観終わった後はすっかり健さんの世界に入ってしまった事を思い出した。

ここ数年は、DVDのレンタルやインターネットで映画やドラマを観る事が多くなった気がする。いつでも、どこでも他人に気兼ねする事なく寝転んだり、飲食をしながらでもパソコンやスマートフォンで、あるいはテレビの再放送で観られるからだ。私は、映画「ら・かんぱねら」を支援する会に参加し、その活動の一環として協賛金のお願いや映画に使う資材の運搬等を手伝った。

海童神社での祈願祭や撮影現場を間近で見学させて貰うと、どんどん映画に引き込まれていく自分が居た。

今日映画館で観た試写の「ら・かんぱねら」は、最近はやりのスマートさは無かったが、佐賀の良さ、泥臭さが随所に盛り込まれ、自然相手の海苔作業の厳しさが表現されていた。

その中でも夫婦の絆、親子の絆、仲間との信頼関係等がふんだんに取り込まれていて、主人公がリストの難曲「ラ・カンパネラ」を有明海での重労働の後、寝る間を惜しんで必死に練習する姿には感激した。

この映画を観た観客が、夢に向かって人生を豊かにし、感動とわくわく感を味わってくれる事を切望する。



生きる証を肌で感じた

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

広報部(WEB担当) 安藤 智之

「ら・かんぱねら」は多くの人の情熱と支えによって形になった“生きた証”のような映画だ。特に印象的だったのは、映画の中で語られる「まだ夢をみることができるんだ」という言葉だ。

このフレーズは単なる台詞ではなく、この映画が生まれるまでのプロセスそのものを体現しているように思えた。映画づくりは一人の想いだけでは成し得ない。しかし、想いをもち続ける人がいる限り、共鳴が生まれ、支えが集まり、ついには形になっていく。結局のところ、夢を諦めるかどうかを決めるのは環境ではなく、その人自身なのだろう。



私自身、このプロジェクトに関わる中で映画が出来上がる過程を肌で感じた。そして、ただ観るだけでは決して知ることのなかった“映画の本質”に触れられた気がする。「ら・かんぱねら」は単なる一本の映画ではない。夢を追い続けることの尊さ、そしてそれを支える人々の力強さを描いた“リアル”な作品だ。



映画は、私への励みになった

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 吉村 明美

2023年の11月に、中溝由美子さん、鐘ヶ江留美子さんと3人でランチを楽しんでいる時に、会のBOSS(川崎賢朗くん)が突然現れて、映画「ら・かんぱねら」を支援する会へ誘ってくれたことが、参加するきっかけとなりました。

軽い気持ちでお引き受けしたところ・・・仕事の都合で、あまりお役にたてることもなく、支援する会のみんなには申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そんな気持ちが大きく変化したのは完成披露試写会の時でした。映画自体はもちろん素晴らしい作品でしたが、皆んなの丸となった団結力に、ただ、ただ感動するばかりでした。

2025年の1月31日より映画の上映が始まり、たくさんのお客様にご来場いただき、連日チケット販売機が大変混雑していると知り、何とかお客様をサポートできないものかと、イオンシネマ佐賀大和へ足を運びました。お客様に気持ちよく映画を見て、楽しんでもらいたいと、その思いだけでした。チケット購入のお手伝いをしていると、労いの言葉をかけてくださるお客様も多く、目標を失いかけていた私自身への励みにもなりました。

BOSSが最初に言ってくださったことがあります。「絶対いい事があるから！」と。

本当にその通りでした。素敵な仲間との出会い。相手を思いやり尊重する大切さ。とても楽しい活動でした。

貴重な経験をさせていただいて、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。



「輪と和」があふれる仲間に出会えた

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 吉田 京子

私にとって映画「ら・かんぱねら」を支援する会はまさに映画を支援する大きな輪と和の会でした。

支援する会の事務所には、初めて出会った人たちがかりなのに長年付き合っているような雰囲気を作りひとつの輪になって活動していました。

チラシを折り込んだり歓迎のうちわを作ったりで大変ですが笑いの絶えない場所でした。そして、深夜になるロケでは冷え切った身体を温かいスープで振る舞い、朝早いロケでは車両部の皆さんが機材を運んでいました。

おもてなしの佐賀の心をさりげなく出して俳優や映画製作のスタッフを和ませていました。映画は宝の海である有明海から始まり、家族愛や夫婦愛の姿を映像に表現して、最後は伊原剛志さん自身のピアノ演奏で終わりましたが、試写会では会場の聴衆が一斉、ラストシーンに息を呑み、終わった瞬間に万雷の拍手が沸きあがっていました。

1日6時間、ピアノに向かって情熱を持ち、努力すれば必ず夢は叶う事を私たちに実証してくれました。そして、映画「ら・かんぱねら」は私に夢を見る喜びを与えてくれた素晴らしい映画でした。

完成した映画はこれから私たちみんなで「育てていく」映画となった気がします。そして、支援する会の「輪と和」がある限り続いていくと思いました。

最後に、夢を叶える仲間に加えていただきありがとうございました。感謝！



新鮮で初めての体験に感動

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム 蔵戸 直己

「映画出演のオーディションがあるらしいよ(^.^)」その一言から始まりました。

有明海の海苔漁師さんが独学で超難曲「ラ・カンパネラ」のピアノ演奏を成し遂げたというエピソードを耳にしていた私は、それが映画になるのなら、とにかく何でもいいから関わりたい！と思いました。

夢に向き合い諦めずにやり遂げたことに感銘し、映画製作について全く知らなかったにも関わらず、支援する会の一員としてのお手伝いがスタートしました。そのすべてが新鮮で初めての体験でした。

映画が完成した秋の試写会は、上映前からハラハラドキドキでした。

サックスの演奏と共に映し出された映像が流れた瞬間から、溢れてしまった涙を隠しきれず恥ずかしいような、そして一味も二味も違った感動を味わいました。一生に一回あるかなにかの貴重な体験をくれた映画「ら・かんぱねら」にありがとうの気持ちでいっぱいです。



海苔師の生き様とオーバーラップ

映画「ら・かんぱねら」を支援する会

支援チーム わたなべ ちえ

「こういう海苔漁師さんいる」とか「あ～こういう奥さんいそう」と納得させられました。海苔漁師の街、川副の空気や音、息遣いが、演技はもちろんのこと画面に映る小道具などによって確かに表現されていました。

海童神社や港周辺に漂う潮の香りや、漁期特有の張り詰めた緊張感までもが感じられ、懐かしさが込み上げてきました。

俳優の表情や仕草は、これまで出会ってきた海苔漁師の皆さんと重なって見えました。一見怖そうでいて優しいこと、妻に頭があがらない可愛らしさがあること、仕事への責任感と漢気があること。そして何よりも、常に有明海と海苔のことを一心に考えて生きていること。

漁師の皆さんから実際に聞いたことのある言葉がセリフとして放たれるたびに、この物語を通して、リアルがもつ輝きを再確認しました。

海苔作りの過程も丁寧に描かれていて驚きました。海苔一枚は冬の凍てつく寒さのなか、家族一丸となって紡ぎ出されるものなのだと。その厳しさと温かさが表現されていました。

私は佐賀の海苔と、海苔を作る人たちを愛しています。素晴らしさを多くの人に知ってほしいと思っています。この映画にはそれを伝える力があると感じました。



「ら・かんぱねら」という共通語

映画「ら・かんぱねら」を支援する会
広報(イベント担当) かくもと しほ

支援する会では広報を担当、また支援する会の発会式や映画クランクイン前の祈願祭・クランクアップのおつかれ会、そしてイオンシネマ佐賀大和での先行上映時の舞台挨拶等での司会を担当しました。その他、オーディションのお手伝いや撮影場所を選ぶ製作スタッフとの同行など普段やり慣れていることから全くの未経験まで様々なことに関わらせて頂きました。

映画「ら・かんぱねら」に携わり多くの方と出会い強く感じたのは、一人ひとりが自分にできることを探し積極的に関わっていかうとする姿でした。

映画製作のプロ集団に臆することなく、地元佐賀の自分たちだからこそ知っていること、感じることを率先して発言、それに監督はじめ現場のプロたちもしっかりと耳を傾けてくれました。

そういった思いの積み重ねが単に「地元で撮った地元を舞台にした映画」ではなく、「自分たちが生きる佐賀の、私たちの映画」を生み出したように思います。

そして映画を観た人たちにも同じように伝わっていて、本編後の5分もある長い長いエンドロールまで、まるで作品の一部として着席のまましっかりと見ていらっしゃるのです。毎上映、観客が入れ替わっても「ら・かんぱねら見たよ」「ら・かんぱねらの...」そんなふうに声を掛けられたり会話を耳にすることもよくあります。「ら・かんぱねら」という共通語がみんなの夢と意思をつなぎ、絆を強くしてくれました。



自然と生きる大切さを痛感

ささき農園 自然薯生産者

佐々木 励

炊き出しに参加した日がクライマックスシーンの撮影最終日でした。炊き出し中は、和やかな雰囲気の中で記念写真を撮ったり、子供たちも伊原さんの膝に座ったりし、見ているこちらが「うらやまし～」とハラハラドキドキの楽しい時間を過ごさせて頂きました。

しかし、撮影に入ると空気が一転し、俳優陣や監督さんの張り詰めた緊張感がこちらにもヒシヒシと伝わってきました。

その一体感はまるで自分も映画の中の世界に飛び込んだかのように、大変貴重な体験でした。何かを成し遂げようと、極めようとするのなら、その事について狂うぐらいにならないければダメだと、何かで読みましたが、まさにその通りのストーリーで胸に響きました。完成した映画を拝見した時は、同じ一時産業に携わる者として自然と向き合う仕事の大変さや家族との時間、夢を持って生きる事の大切さをより一層強く感じました。

この映画に少しでも携われた事を嬉しく思います。ありがとうございます。



トマトジュースで応援

(株)Agrish トマト生産者

吉田 章記



この度は、映画「ら・かんぱねら」の撮影現場で、弊社のトマトジュースをケータリングとしてご提供させていただく機会をいただき、誠にありがとうございました。現場では、製作スタッフやキャスト、そして支援する会の皆さんが一丸となって真摯に映画づくりに取り組まれている、その熱意と情熱に触れ、感動いたしました。

昼の食事の時は、炊き出しの弁当やスープと共に、弊社のトマトジュースを召し上がっていただき皆様から「自然な甘みが美味しい」「疲れた体に染み渡る」といった温かいお言葉を掛けてもらい、大変嬉しく思っております。このような形で、地域に根ざした企業が、映画を通じて佐賀や有明海の魅力を発信するこのプロジェクトに微力ながら参加できましたことを誇りに感じております。



映画「ら・かんぱねら」の公開が全国の皆様に感動を届けることを心より祈念するとともに、今後とも地域と共に歩む企業として、皆様の挑戦を応援してまいります。本当にありがとうございました。

現在の困難が描かれ共感

元 サガテレビアナウンサー

完成披露試写会 司会 内田 信子



私は、昭和30年代初めに佐賀市川副町広江で生まれ、漁師さん達の重労働と改善努力によって有明海が日本一の海苔産地になっていく歴史を見て来ました。サガテレビの記者時代は、映画のモデル徳永義昭さんの妻千恵子さんのご両親が「苦労するから海苔漁師の所へ嫁にはやれん」と言われるほど過酷な漁場で幾度となく取材をさせて頂きました。

有明海の海苔漁師の夢を描くという映画の力になれるならと企画に参加したのは、ごくごく自然なことです。助け合ってきた漁師さん達の強い絆が核となって、支援の輪は大きく広がっていきました。事前準備から撮影・資金集めなど、その大変さは並大抵ではなかったのです。

映画では徳永さんが夫婦愛、家族愛に支えられながら「ラ・カンパネラ」の完奏という夢を追いかける姿が描かれていましたが、海苔の不作や後継者難など、現在の困難が描かれた事も共感を呼んでいます。

この映画の成功と徳永さんが安心して「ラ・カンパネラ」の演奏を楽しめるように、有明海が「宝の海」であり続ける事を願っています。



La Campanella

ら・かんぱねら

[進行台本]

2024.11.17 佐賀市文化会館 大ホール



台本

(第一部)	
12:25	予ベル
影アナ	本日は、お忙しい中、映画「ら・かんぱねら」の特別試写会に足を運んで頂き、ありがとうございます。皆さまの多くのご支援を持ちまして映画が完成いたしました誠にありがとうございます。まもなく上映になります。皆さま、どうぞお席の方に着席をお願いいたします。上映に当たりまして、いくつかの注意点を申し上げます。 ・上映中の映画の撮影・録音は、法律で禁止されています。 ・携帯の電源を切るか、マナーモードにしてください。 ・会場での飲食は、禁止されています。お席で静かに鑑賞をお願いいたします。 尚、聴衆の皆様には、上映が終了しましたら俳優のみなさんの舞台挨拶もございます。楽しみにしてください。 まもなく、上映致します。静かにお席に着座下さい。
12:30	本ベル
	1時間59分の上映
14:30	映画終了　～　下手の司会者席へ
3分	いかがでしたか、素晴らしい映画でしたね。(アドリブ) 司会は、内田信子です。宜しくお願いいたします。 これからのスケジュールを簡単に説明させていただきます。 主催者、監督の挨拶の後、俳優の皆さんがステージに総出演され観客の皆さんに、ご挨拶されます。 それが終わりますと、皆様に「フォトタイム」を設けて自由に撮影できる時間を作ります。撮った写真は、直ぐにでもフェイスブック・X・SNSで拡散して頂ければと思っています。それまでお待ちください。
14:33	(理幸・監督・代表挨拶)
2分	それでは、映画「ら・かんぱねら」の企画・脚本・監督をされました鈴木一美監督ご挨拶です。
3分	ありがとうございます。続きまして映画「ら・かんぱねら」を支援する会より、陣内芳博会長です。
14:38	(俳優の舞台挨拶)
3分	それでは、俳優のみなさんの登壇ですが、観客の皆様まだ撮影は出来ません。終わりましたかフォトタイムがありますしばらくお待ちください。では、俳優のみなさんの登壇です。 まずは、主役で奇跡のピアニスト徳田時生役の伊原 剛志さん。続いて、徳田時生の奥様・奈々子役の南 果歩さんです。 おじいちゃん役の巖を演じられた 不破 万作さんです。 好青年で息子・優斗役の緒形 敦さんです。 続いて、時生の妹役の枝元 萌(もえ)さんです。 海苔師の土崎幸雄役の田中 かんさんです。 徳田水産の立花賢太役の鹿毛 喜季(よしき)さんです。 佐賀市川副町出身で介護士の長岡みつ子役の川崎 瑞奈さんです。 映画に出演して頂いた俳優の皆さんです。 もう一度、温かい拍手をお送りください。 なお、大室寛弓さんとどろろっくの二人は、仕事で欠席になりました
14:41	(俳優5人の挨拶)
4分	それでは、伊原剛志さんから順にご挨拶をお願いします
4分	続いて、南果歩さんお願いします。
3分	不破万作さん
3分	緒形 敦さん
3分	枝元 萌さん
3分	他の俳優を代表して、佐賀市出身の川崎瑞奈さん、お願いします。 質問などで時間調整～最大15:10まで
15:10	(九州キャスト紹介) (台本編)
4分	その他、いろいろな方が出演され素晴らしい映画に仕上がりました。ご紹介いたします。大変申し訳ございませんがその場にご起立され、皆さまに挨拶をお願いします
欠	・今野工務店、今野正一社長役の 万 丈(まんじょう)さんです
欠	・製造の工場主、棚川 正彦役の 上原 麗太(れいた)さんです。
欠	・南川副支所、森山昇補選委員長役の 岩坪 光輝(ひかる)さんです
欠	・有明漁協、森山亮一青年部長役の 松下 莉久(りく)さんです。
欠	・ラーメン店「夫婦軒」の浜井大介大将役の若本 持池(まさほる)さんです
欠	・ラーメン店「夫婦軒」の浜井遼子女将の小貫 薫(かおる)さんです
欠	・徳田水産、青田 仁工場長役の 張満 信幸(のぶみち)さんです
欠	・ピアノ調律師の江里口順子役の さざわ りかさんです
欠	・進藤 寿自治会会長役の 橋本 和雄(かずお)さんです
欠	・近所のおばちゃん、吉岡信子役の 坂本 幸代(さちよ)さんです
欠	・同じおばちゃん、伊東 富貴子役の 本村 久美子(くみこ)さんです
欠	・楽器店店長役 松尾 秀昭(ひであき)さんです
欠	・バチンコの女性客 吉村 志保(しほ)さんです
欠	・時生の高校生時代の役 木寺 玲音(れおん)さんです
欠	・奈々子の高校生時代の役 舟越 幸音(ゆきおと)さんです
欠	・ピアノの女子生徒役 北村 桃々(もも)さんです 保護者
欠	・ピアノの女子生徒役 真子 夏実(なつみ)さんです 保護者
欠	・ピアノの生徒、太田仙治役の 坪倉 謙之(けんじ)さんです
欠	・ピアノの男子生徒役 片岡 奏汰(そうた)さんです 保護者
欠	・チアローケスの女子大生役 田中 咲夜花(さいか)さんです
欠	・ピオラケースの女子大生役 田中 由衣夏(ゆいか)さんです。
欠	・吉澤温泉、山口麗支配人役 栗原 高広(たかひろ)さんです。
15:15	モデルの徳永義昭さん千恵子さんご夫婦です。皆さんへのご挨拶です伊原剛志さんと南果歩さんの間にお入りください
15:20	(フォトタイム)
4分	さてお楽しみフォトタイムです。徳永さんご夫婦もセンターに進まれ、皆様と一緒にお願いします。さあ皆さま、映画に出演された俳優のみなさんの撮影ができます。お持ちの携帯やカメラ、ビデオで撮影してください。撮影したら、フェイスブック・SNSに上げて拡散をお願いします皆さま、撮影はこれを持ちまして終了致しますステージの皆様、ありがとうございます。幕引きをお願いします。
15:25	(一部終了)
15:30	(観客が下りる)
15:30	マスコミ関係者の皆様、ステージ裏にお越しください。俳優の伊原さんと南さん、徳永さんの囲み取材です宜しくお願いいたします。

タイムスケジュール(AN・進行用)

時間	時間枠	進行	場内・客席	ステージ	AN・その他	キャストの動き
10:00	2時間	ミーティング		スクリーンなど設置		メイク準備
10:30		開場設営	マスコミ用の音声OUTチェック	舞台挨拶窓にマーク	途中で食事	10時40分南さん入り
11:00		全体リハ	グストの客席確認		流れ確認	キャストは無しで
12:00		開場			マスコミ関係者 一階で受付	東京からのキャスト入り
12:25	2分	予ベル		影アナ	上映時の注意AN	
12:30	2時間	時間厳守	本ベル			
			第一部の上映	第一部の上映		
14:30		映画終了	場内明転・ANにスポット	下手、司会者席に内田登場	観客への要望等	
	3分	会場へ挨拶	これからの進行説明	観客への要望等	企画・脚本・監督鈴木一美	挨拶後、直ぐに退席
14:33	2分	下手待機	鈴木監督、お礼のあいさつ	鈴木監督 下手のマイクで挨拶	企画・脚本・監督鈴木一美	挨拶後、直ぐに退席
	3分	下手待機	陣内会長、挨拶	陣内会長 下手のマイクで挨拶	支援する会会長	挨拶後、退席
14:38	3分	俳優舞台挨拶	俳優登壇・下手より中央へ	センターに明りとかんぱねらの字幕		
			川崎 枝元 緒形 伊原 南 不破 田中 鹿毛	全員順番に所定の位置に入る	簡単な配役を紹介しながら1人ずつ紹介	
			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	伊原剛志/南 果歩/不破万作/	※入る順番と紹介の順番は変わる。センターに伊原さん	
			(赤はマイク)	緒形 敦/枝元 萌/田中がん/鹿毛喜季	さんと南さんがきて左右に家族。応相談。	
				川崎瑞奈		
14:41	4分		俳優のあいさつ時間	伊原剛志さん挨拶	映画に対する想いなど	
	4分			南果歩さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			不破万作さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			緒形 敦さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			枝元 萌さん挨拶	映画に対する想いなど	マイクを瑞奈に
	3分			川崎瑞奈さん挨拶	映画に対する想いなど	
15:00～10					質問などでANで時間調整	
15:10	4分	時間厳守	九州キャストの紹介 (AN)	席で立ってもらうだけに		
15:15	3分		モデルの徳永義昭夫婦登場	徳永夫妻、伊原さんと果歩さんの間に	下手のマイクで挨拶	
15:20	5分	時間厳守	フォトタイム	徳永さん夫婦と一緒に	俳優と一緒に写真タイム	SNSなどに発信
15:25		一部終了			AN一部終わりを告げる	
15:30		時間厳守	観客を下す	俳優がステージから抜けると観客		
	(約10分)	退席	観客の裏で	(囲み取材は、10分程度)	伊原・南・徳永	監督は別の場所

(二部)

16:00		開場	二部の客入れ			
16:25		予ベル		観客を上げる		
16:30		時間厳守	本ベル		影アナ・上映時の注意	
	2分			下手、司会者席に内田登場		
	2分			陣内会長挨拶	舞台下手で挨拶	
16:34	3分	俳優舞台挨拶	俳優登壇・下手より中央へ	センターに明りとかんぱねらの字幕		
			川崎 枝元 緒形 伊原 南 不破 田中 鹿毛	全員順番に所定の位置に入る	簡単な配役を紹介しながら1人ずつ紹介	
			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	伊原剛志/南 果歩/不破万作/	※入る順番と紹介の順番は変わる。センターに伊原さん	
			(赤はマイク)	緒形 敦/枝元 萌/田中がん/鹿毛喜季	さんと南さんがきて左右に家族。応相談。	
				川崎瑞奈		
16:37	3分		俳優のあいさつ時間	伊原剛志さん挨拶	映画に対する想いなど	
	3分			南果歩さん挨拶	映画に対する想いなど	
	2分			不破万作さん挨拶	映画に対する想いなど	
	2分			緒形敦さん挨拶	映画に対する想いなど	
	1分			枝元 萌さん挨拶	映画に対する想いなど	マイクを瑞奈に
	1分			川崎瑞奈さん挨拶	映画に対する想いなど	
16:59	2分	時間厳守	九州キャストの紹介 (AN)	席で立ってもらうだけに		
17:01	3分		モデルの徳永義昭登場	徳永夫妻、伊原さんと果歩さんの間に	俳優と一緒に写真タイム	SNSなどに発信
17:04	3分		フォトタイム	徳永さん夫婦と一緒に	撮影して、SNSで拡散の願い	
17:07			予ベルまでには退席する	舞台挨拶終了	終了挨拶	
17:10			予ベル		観客への注意事項	※舞台挨拶終了後にキャストは佐賀空港へ(伊原さん以外)18:55発
17:15		時間厳守	本ベル	第二部の上映		
19:15	2分		監督終了の挨拶	下手に明り		
19:17		終了挨拶		影アナ	封切などPR	
19:20			第二部終了	スクリーン撤去	撤去時間は3時間	
22:00				全て終了		